

「福井新々元気宣言」に基づく4年間の県政

(平成23～26年度)

平成26年12月

福井県

# はじめに

福井県では、福井の「元気」をさらに大きくして、明るい「希望」を次の世代につなぐことを目指し、「福井新々元気宣言」を基に、県議会や市町との議論と協力のもと、様々な政策を実施してきました。

また、「政策合意等における4年間の目標数値」を設定し、その進捗を管理するとともに、達成状況については毎年度の知事と部局長による「政策合意」の結果として公表してきました。

本年度は、「新々元気宣言」の最終年度に当たるため、4年間の県政の全体像をできるだけ早い段階で公表することが望ましいと考え、最終的な実績が確定する前に達成見込みを公表することとしました。

本資料は、「新々元気宣言」に掲げた4つの「元気」と12の政策ごとに、主な施策とその成果（見込み）を示したものです。

## 「政策合意等における4年間の目標数値」の達成状況

4つの元気	目標数	達成済	達成見込	達成困難	達成率
元気な産業	41	2	34	5	88%
元気な社会	35	3	27	5	86%
元気な県土	12	3	6	3	75%
元気な県政	9	1	7	1	89%
行財政構造改革	3	1	2	0	100%
計	100	10	76	14	86%

# 目 次

## 元気な産業

- 1 技術と戦略で勝ち抜く福井の産業 1
- 2 新しい方向をひらく農林水産業 3
- 3 観光とブランドを産業の柱に 5

## 元気な社会

- 4 日本のモデル「福井の教育」 7
- 5 すぐれた医療と支えあいの福祉 9
- 6 若者のチャレンジと女性の活躍を応援 11
- 7 日本一の安全・安心(治安向上から治安実感へ) 13
- 8 豊かな環境、もっと豊かに 15

## 元気な県土

- 9 県土に活気の高速交通時代 17
- 10 原子力の安全対策を見直し信頼へ、研究開発で貢献 19

## 元気な県政

- 11 国体めざす県民スポーツ、生活のなかに楽しむ県民文化 21
- 12 「希望ふくい」のふるさとづくり 23

## 行財政構造改革

25

### 凡 例

「新々元気宣言」に基づく政策を実施する前の福井県の状況を表しています。

#### 園芸産出額

120億円  
平成22年度

150億円(見込み)

<目標 26年度 150億円>

「新々元気宣言」に基づく政策を実施した後の福井県の状況を表しています。

また、4年間の目標数値を<>に記載しています。

## 12の政策

# 1 技術と戦略で勝ち抜く福井の産業

新たに企業立地推進戦略本部と東京・大阪の各事務所を拠点とする営業本部を設け、機動的な誘致活動を行い、4年間で100社を超える企業立地を実現しました。

### 企業立地数（暦年）

89社  
平成19～22年

➔

**114社**（見込み）  
<目標 23～26年 100社>



《新たに進出した企業》  
(日本電産テクノモータ㈱(小浜市))

(関連指標)

	(H19～22)		(H23～26)
立地企業の計画雇用数	1,568人	⇒	1,880人(見込み)
立地企業の設備投資額	1,076億円	⇒	1,350億円(見込み)

金融機関との共働で100億円の「ふるさと企業育成ファンド」を創設し、50社を超える中小企業の新分野展開や商品開発を支援しました。

### ふるさと企業育成ファンドによる支援企業数

[新たに設定]

➔

**57社**（見込み）  
<目標 23～26年度 50社>

ちよいバス  
(福井車輛輸送㈱)



三連時計(榊木工房蔵)

《ファンドにより販売支援を行った商品開発等の例》

(関連指標) ファンドの支援を受けた企業の売上高 13億円増加(H23～25)

経済界とともに「ふくい貿易促進機構」を設立するとともに、バンコクビジネスサポートセンターも開設し、県内企業のアジアへのビジネス展開を支援しました。

### 機構の支援を受けてアジアへ輸出した企業

[新たに設定]

➔

**149社**（見込み）  
<目標 23～26年度 60社>



《タイ工業省との経済協力に関する覚書の締結》  
(平成26年11月)

(関連指標) 機構の支援を受けてアジアに拠点を開設した企業 50社(見込み)

理工系人材の県内就職を促進する奨学金制度を創設し、60名の県内就職を実現しました。また、「ふくいジョブカフェ」とヤングハローワークの共動による一貫した就職相談体制等により、雇用のミスマッチを低減するなど、全国トップの雇用水準を維持しました。

ものづくり人材育成修学資金貸与者のうち  
県内就職人数

〔新たに設定〕



60名(見込み)

<目標 23~26年度 54名>



《ふくいジョブカフェ》

(関連指標) 失業率の低さ 全国2位(3.3% H22) ⇒ 全国1位(2.6% H25)

福井新々元気宣言に掲げた主な施策

- ◆新成長産業の創出と誘致
  - 攻めの企業誘致
    - ・エリア別担当の企業誘致体制と常時の立地企業フォローアップ
    - ・舞若道・敦賀港の完成に合わせ、「新産業エリア」を嶺南地域に造成
- ◆「これから100年企業」育成プロジェクト
  - 「ふるさと産業」の元気再生
    - ・「中小企業育成ファンド」の創設。技術革新・新分野展開の企業を認定し、投資・経営をパッケージで応援
- ◆福井本拠にグローバルシフト
  - アジアビジネスの拡大
    - ・「ふくい貿易促進機構」を設立。企業の市場開拓から販売促進までトータルで応援
- ◆若者に雇用と所得を
  - 若者雇用を最優先にジョブサポート
    - ・若者の「雇用」と「キャリアアップ」をあわせて行う企業を重点支援
  - 若者のUIターン促進
    - ・「ものづくり奨学金」を創設し、技術系学生の県内就職を促進

「政策合意等における4年間の目標数値」の達成状況

目標数	達成済	達成見込	達成困難
14	0	12	2

達成率
86%

## 12の政策

## 2 新しい方向をひらく農林水産業

五月半ばの適期田植えの定着や区分集荷の完全実施により、県産コシヒカリは2年連続「特A」評価を獲得。集落営農組織等への農地集積率も7割に達し、大規模経営による効率化を進めました。

### 集落営農組織等への農地集積率

60.1%  
平成22年度末



**70%超**(見込み)  
<目標 26年度末 70%>



《「コシヒカリを生んだ福井県」全国キャラバン》  
(平成26年9～11月)

(関連指標) 県産コシヒカリの食味ランキング 特A(最高ランク:H24、25年産米)

嶺南への大規模園芸施設の整備、坂井北部丘陵地等への企業的園芸の導入促進等により、園芸生産を拡大。また、園芸カレッジを開校し、園芸生産を担う人材を育成しました。

### 園芸産出額

120億円  
平成22年度



**150億円超**(見込み)  
<目標 26年度 150億円>



《園芸カレッジでのトマト収穫作業》  
(あわら市)

(関連指標) 企業的経営を行う農業法人や企業の誘致数 31社(見込み)

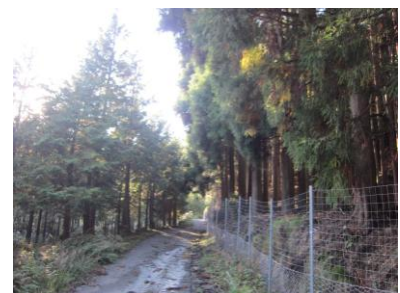
狩猟期間の前倒しや山ぎわの侵入防止柵、獣害対策管理道の整備、奥山の針広混交林化等、総合的な対策を実行し、有害鳥獣による被害面積を大幅に削減しました。

### 有害鳥獣による農作物被害面積

425ha  
平成22年度



**300ha**(見込み)  
<目標 26年度 345ha>



《ふくい型獣害対策管理道》  
(おおい町)

旧林業公社の分収造林事業を県有化するとともに、集落を単位とする「コミュニティ林業」等により間伐材供給量を倍増。また、木質バイオマスセンターの開設により、木材需要を拡大しました。

### 間伐材供給量

44,000m<sup>3</sup>  
平成22年度

➔

**80,000m<sup>3</sup>**(見込み)  
<目標 26年度 60,000m<sup>3</sup>>



《ふくい WOOD バイオマスセンター》  
(あわら市)

若狭湾(美浜町)に定置網を増設し、漁獲量の増加を図るとともに、漁場の保全・調査を計画的に実施し、越前がになど豊かな水産資源を守り育てました。

### 越前がに(せいこがに)の資源量

765t  
平成22年度

➔

**917t**  
<目標 26年度 900t>



《新設した定置網での漁》  
(美浜町)

## 福井新々元気宣言に掲げた主な施策

- ◆農業から「食料産業」へ
  - 消費者に選ばれる福井米づくり
    - ・すべての米作農家を減農薬のエコファーマーに。区分集荷・出荷体制を完備し、食味と価格を向上
    - ・集落型営農の栽培・経営のステップアップ、農地集積を7割に
  - 「園芸新戦略」によるオールシーズンの産地拡大
    - ・電力・施設活用の周年型野菜園芸を育成、モデル食品産地の育成に挑戦
- ◆暮らしとともに地域農業
  - 鳥獣害対策の全面展開
    - ・里山ゾーンの人と動物の住み分け、利用と防御。奥山での針広混交林の拡大
- ◆森を市場にもっと直結
  - 山への意欲を引き出す「コミュニティ林業」
    - ・集落単位の「コミュニティ林業」で効率的な間伐・主伐を促進
- ◆おいしく割安な若狭・越前の地魚
  - 地魚を安定供給する漁場の保全と新技術の導入



《周年型エコ園芸施設》  
(高浜町)

## 「政策合意等における4年間の目標数値」の達成状況

目標数	達成済	達成見込	達成困難
18	2	15	1

達成率
94%

## 12の政策

### 3 観光とブランドを産業の柱に

野外恐竜博物館の開設、カマラサウルスの全身骨格等、ダイノソーバレーに新たな見どころを次々追加し、恐竜博物館の入館者数は開館以来最多となる70万人の大台に到達しました。

#### 恐竜博物館の入館者数（野外博物館含む）

50.8万人  
平成22年度



**73万人**（見込み）  
<目標 26年度 70万人>



《野外恐竜博物館での発掘体験》  
（平成26年7月オープン）

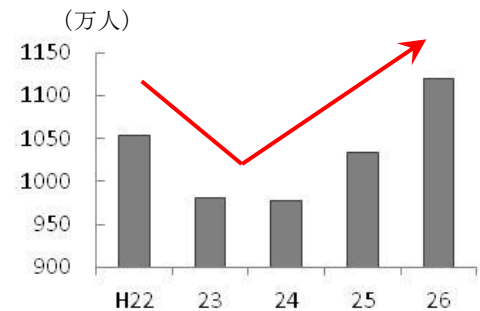
一乗谷朝倉氏遺跡をはじめ、観光地のスケールアップを推進。舞鶴若狭自動車道全線開通を記念した観光キャンペーンの展開等により、観光客入込数は震災前の水準に回復しました。

#### 観光客入込数（暦年）

1,053万人  
平成22年



**1,120万人**（見込み）  
<目標 26年 1,200万人>



《観光客入込数の推移》

市町とともに学生合宿、体験学習等教育旅行の誘致を推進し、県外からの教育旅行者数が倍増しました。

#### 県外からの教育旅行者数

35,700人  
平成22年度



**78,000人**（見込み）  
<目標 26年度 70,000人>



《教育旅行での魚さばき体験》



銀座に「食の國 福井館」を新たに開設。テレビ電話を活用した鮮魚、野菜の販売等も行い、ふくい南青山291と合わせた2店舗での売上げを約3倍に伸ばしました。

ふくい南青山291の売上高（銀座店含む）

1億770万円  
平成22年度



**3億円**（見込み）  
<目標 26年度 2億円>



《食の國 福井館》  
（平成25年4月オープン）

福井新々元気宣言に掲げた主な施策

◆ダントツ日本一ブランドの「恐竜王国」

- 「恐竜渓谷(ダイノソーバレー)100万人」構想
  - ・奥越全体を「恐竜キッズランド」の渓谷へ。博物館・屋内外の自然環境・体験観光施設を充実し、自然体験学習フィールド化
  - ・化石発掘フィールドの「野外博物館化」、街なかミュージアムショップの開設
- 世界水準の研究と着実なビジネス化
  - ・「アジア恐竜学会」の設立。中国・タイの博物館と連携し、福井をアジア最大の恐竜研究拠点へ
  - ・新しい恐竜ビジネスに資金を投入(恐竜関連のグッズの開発、映画制作など)



《一乗谷朝倉氏遺跡》  
（整備した月見櫓からの眺め）

◆観光を福井のリーディング産業へ

- 観光地をスケールアップするハード・ソフトの複合投資
  - ・「若狭湾岸ハイウェイプロジェクト」の重点推進。敦賀港、小浜街なか、三方五湖など観光スポット、インター周辺を複合拠点へ
- 「福井がわかる」ニューツーリズム
  - ・教育旅行の誘致促進。藤野巖九郎の知名度を生かした中国からの誘客
- 観光ルートの新ポイント「道の駅」の設置・活用
  - ・道の駅・空港駅・高速SAを活用し、オリジナルなふるさと商品の販売拡大



《あわら温泉「芦湯」26年5月オープン》

◆ブランド拡大の営業戦略

- ふくい南青山291とサテライト店の新商品ラインアップで売り上げ倍増



《道の駅「西山公園」26年4月オープン》

「政策合意等における4年間の目標数値」の達成状況

目標数	達成済	達成見込	達成困難
9	1	6	2

達成率
78%

# 12の政策

## 4 日本のモデル「福井の教育」

「学力向上センター」を開設するとともに「授業分かる度評価(授業満足度調査)」を導入し、授業改善を着実に実行。子どもの学力・体力日本一を継続し、全国をリードする「日本の教育センター」としての地位を確立しました。

### 授業満足度

[新たに設定]



76%

<目標 26年度 70%>



《公開授業》

### 全国学力テスト (全国学力・学習状況調査)

(H22)

(H26)

小学6年生 全国2位  
中学3年生 全国1位



全国2位  
全国1位

### 全国体力テスト (全国体力・運動能力、運動習慣等調査)

(H22)

(H26)

小学5年生 全国1位  
中学2年生 全国1位



全国1位  
全国1位

(関連指標) 県外からの教育視察受入れ数 268名(H22) ⇒ 1,576名(H25)

サイエンス、難関資格、英語など様々な分野における子どもたちのチャレンジを後押しし、次代を担う人材を育成しました。

### 全国科学オリンピック等の参加者数

100人  
平成22年度



236人

<目標 26年度 140人>



《南部陽一郎博士とのサイエンス交流会》  
(平成26年2月)

(関連指標) 電気主任技術者など難関資格取得者数 2,526名(H22) ⇒ 2,650名(H26見込み)

職業系高校の再編や、併設型中高一貫教育校の開設等を進め、進学・就職両面のバランスをとりながら、高校生の就学環境を向上させました。

### 県立高校の再編・新学科の開設等

- ・若狭高校に文理探究科開設(24年度)
- ・小浜水産高を若狭高に統合、海洋科学科開設(25年度)
- ・新たな総合産業高校の開設
  - 若狭東高校(25年度)
  - 坂井高校(26年度)
- ・併設型中高一貫校(県立高志中学校)の新設(27年度)



《平成26年4月 坂井高校開校式》  
(坂井市)

## 福井新々元気宣言に掲げた主な施策

- ◆日本の教育センター福井
  - 子どもの教育は福井で
    - ・全国の教員を受け入れ、福井の教育の良さを学び活かす「先生の学校」制度
- ◆夢と希望を育てる学校
  - ゼロ歳から高校まで「福井型18年教育」
    - ・「幼児教育センター」を設置。幼・保行政の一元化により、家庭とともに幼児教育を充実
    - ・中高一貫の新しい「公立教育パイロット校」を検討
  - 県民の期待にこたえる高校教育
    - ・学校再編は、教育環境の充実を第一に実施・支援
    - ・「資格インターハイ」の実施。職業系高校生の資格取得を応援
    - ・「分かる授業推進プログラム」。公開授業と生徒による「授業の分かる度評価」の導入
  - 中・高校生のためのスペシャルプログラム
    - ・国際コンテストにもっと応募。大学・企業の参加による最先端分野のカリキュラムを充実
- ◆次をめざす教育の充実
  - 教員の授業力を次のステップへ



《幼児教育支援センターのグッドトイコーナー》  
(県生活学習館内(福井市))

## 「政策合意等における4年間の目標数値」の達成状況

目標数	達成済	達成見込	達成困難
7	2	3	2

達成率
71%

# 12の政策

## 5 すぐれた医療と支えあいの福祉

全市町統一のがん検診受診券やがん検診簡単予約システムを導入し、受診率を向上。陽子線がん治療センターには世界初の治療システムなどを導入し、利用者数を拡大しました。

### がん検診受診者数

567千人  
平成22年度



**800千人**(見込み)  
<目標 26年度 790千人>



《休日レディースがん検診》

### 陽子線がん治療センター利用者数

[新たに設定]



**200人**(見込み)  
<目標 26年度 187人/年>



《陽子線がん治療センター》  
(26年3月、新たな治療設備運用開始)

坂井地区において24時間365日対応の在宅ケアのモデル事業をスタートしました。また、全国初となる「定年齢認知症検診」の全市町での導入を進め、高齢者の元気生活を後押ししました。

### 在宅医療の利用者数

3,087人  
平成22年度



**4,300人**(見込み)  
<目標 26年度 3,500人>



《坂井地区の在宅ケア体制モデル》  
(医師による訪問)

(関連指標)

	(H22)	⇒	(H26見込み)
在宅介護サービス利用者の割合	71%	⇒	73%
介護5施設整備数(累計)	9,993床	⇒	11,045床
定年齢での認知症検診の受診者数	—	⇒	45,000人

障がい者の皆さんが働く事業所の経営改善等を支援し、障がい者賃金や事業所数が大幅に増加しました。

### B型事業所\*障がい者賃金（月額）

17,918円  
平成22年度



**23,700円**（見込み）  
<目標 26年度 20,000円>



《元気に働く障がい者》

（関連指標）	（H22）	（H26見込み）
A型事業所*の事業所数	24事業所	⇒ 57事業所
A型事業所で働く障がい者数	577人	⇒ 1,155人

※A型事業所 … 雇用契約に基づき、最低賃金や労働法の適用のある就労事業所

※B型事業所 … 障がい者が訓練として働く事業所

## 福井新々元気宣言に掲げた主な施策

- ◆さらに高まる医療水準
  - がん予防・登録・治療日本一
    - ・県立病院「陽子線がん治療センター」、「がん医療センター」において最先端のがん治療を提供し、医療実績を向上
    - ・忙しい人もできる「簡単がん検診」を独自に導入。がん検診受診率を引き上げ
- ◆自立を基本に頼れる福祉
  - 「待機者ゼロ」の再継続
    - ・介護入所施設・在宅ケア・デイケア・ショートステイ・語らいの集会場などを個々人のニーズに合わせ組み合わせ、「介護待機者ゼロ」を継続
  - 自立と生きがいの障がい者支援
    - ・障がい者の雇用率、授産施設障がい者賃金のさらなる向上
- ◆元気生活のアクティブ・シニア、「元気活躍率日本一」へ
  - 年をとっても元気に活躍できる福井（エイジング・イン・プレイス）
    - ・「ふくい在宅安心ネット」を拡大。患者と家族を医療・福祉のチームが連携し支援
  - 先導的な認知症ケアに着手
    - ・定年齢における「認知症検診」を導入し、早期発見と早期治療を徹底

## 「政策合意等における4年間の目標数値」の達成状況

目標数	達成済	達成見込	達成困難
8	0	7	1

達成率
88%

## 12の政策

## 6 若者のチャレンジと女性の活躍を応援

「ふくい若者チャレンジクラブ」を設立し、街コン・街歩き、伝統産業振興など、若者の熱意・発想による地域活性化の活動を応援しました。

### チャレンジ活動をする若者の数

〔新たに設定〕



**1,350人**(見込み)

<目標 23~26年度 1,000人>



《若者チャレンジクラブ(嶺南盛り上げ隊)》  
(隊結成・舞茶道全通記念キャンドルナイト)

「ふくふく出会い応援団」を結成し、若者の交流の場を拡大するとともに、地域の「迷惑ありがた縁結び」活動を活発化させ、男女の出会いを積極的に後押ししました。

### 出会い・交流イベントにより出会いの機会を得る人数

3,537人  
平成22年度



**4,080人**(見込み)

<目標 26年度 3,900人>



《縁結びさんパーティー》

「未来きらりプログラム」に基づき女性リーダーを養成し、女性による商品開発チームの結成など、女性の活躍を応援する企業を倍増しました。また、男性の家事参加を促しました。

### 女性活躍支援企業 登録企業数

60社  
平成22年度末



**133社**(見込み)

<目標 26年度末 100社>



《未来きらりプログラム(女性リーダー養成講座)》

(関連指標) 「家事チャレンジ検定」\*受験者数 930人(H26見込み)

\*平成24年度から本県独自に導入

小学6年生まで児童を受け入れる「放課後子どもクラブ」を全小学校区で設置しました。  
また、「企業子宝率」\*を全国で初めて算出するなど、子育てを応援する企業を支援し、全国上位の合計特殊出生率を維持しました。

※企業子宝率 … 企業の従業員が当該企業在職中に持つことが見込まれる子どもの数。  
福井県のほか、静岡県、三重県など5県が導入

**6年生まで受け入れる放課後子どもクラブ  
実施校区数**

183校区  
平成22年度末



**193校区**  
(希望世帯がある全小学校区)  
＜目標 26年度末 全小学校区＞



《放課後子どもクラブ》

(関連指標) 合計特殊出生率 全国6位(1.61 H22) ⇒ 全国8位(1.60 H25)

**福井新々元気宣言に掲げた主な施策**

- ◆若者にチャレンジの場
  - 若者応援プロジェクト
    - ・若者政策の総合的な推進組織を設置、若者の地域貢献・海外での活躍を促進
  - 「縁結びさかんな先進県」
    - ・全国初のポータルサイト「婚活カフェ」の充実、イベント参加型の婚活を応援
- ◆働く女性に活動のゆとりを
  - 仕事にも家庭にもゆとりをプラス
    - ・女性のゆとりを増やす県民運動を展開
  - 女性リーダーの出やすい社会
    - ・福井版「女性の未来プログラム」を県庁内外の女性の力を集め作成。女性力を伸ばし活かす社会づくりを促進
    - ・トップに立てる女性リーダーとメンター養成。女性活躍企業の応援、働く女性のネットワーク拡大
- ◆子どもがたくさん、家族を応援
  - 遊ばせ上手の子育て家族
    - ・小学6年生までの「放課後子どもクラブ」を拡充
  - 「子育て応援モデル企業」応援
    - ・「従業員子持ち率」を企業の協力により独自に算出。インセンティブ制度を導入し、「子育て応援モデル企業」を増加

**「政策合意等における4年間の目標数値」の達成状況**

目標数	達成済	達成見込	達成困難
5	1	4	0

達成率
100%

## 7 日本一の安全・安心 (治安向上から治安実感へ)

全小学校区における「子ども重点見守りデー」や女性の被害防止のためのパトロールの実施により子どもや女性の安全・安心の確保を図りました。

### 「子ども重点見守りデー」実施校区数

[新たに設定]



**全小学校区**(見込み)

<目標 26年度末 全小学校区>



《子ども重点見守りデー》

(関連指標) 交通事故による死傷者数 4,378人(H22) ⇒ 3,485人(H25)  
 刑法犯認知件数 6,058件(H22) ⇒ 5,285件(H25) 11年連続減少  
 県民が身近に不安を感じる犯罪(空き巣、車上狙いなど)の認知件数  
 2,369件(H22) ⇒ 1,922件(H25)

自主防災組織率を大きく引き上げ、「つながりの防災力」を強化しました。

※自主防災組織：地域住民が協力・連携し、災害から「自分たちの地域は自分たちで守る」ために活動する組織

### 自主防災組織率

78%

平成22年度末



**90%超**(見込み)

<目標 26年度末 90%>



《自主防災活動(訓練)》

(関連指標) 消防団員数 5,560人(H22) ⇒ 5,788人(充足率96.6% H26見込み)



小・中学校の耐震化を優先的に進めるとともに、災害について学ぶ授業を実施するなど、子どもの安全・安心を確保しました。

### 小・中学校耐震化率

78.4%  
平成22年度末



**95%**(見込み)  
<目標 26年度末 90%>



《防災授業》

## 福井新々元気宣言に掲げた主な施策

### ◆治安実感プログラム

#### ○犯罪の徹底防止

- ・警察官のパトロール強化による「犯罪の起きにくいまちづくり」。子ども・女性・高齢者への犯罪を徹底防止

#### ○地域の総ぐるみ「子ども・女性見守り活動」

- ・「子ども安心通学路」を実現。街灯、防犯灯の整備を促進
- ・子どもと女性を性犯罪から守る一歩進めた対策を警察本部と実行

#### ○高齢者の交通事故対策

- ・高齢者が見えたらスローダウン。高齢者の交通安全研修、免許返納を促進

### ◆地震・異常気象・災害などに迅速対応

#### ○「最初動」の災害・危機対策

- ・地震や「集中豪雨」、「集中豪雪」などに備え、国・地方をこえた現場の初動対応

#### ○「つながりの防災力」の強化

- ・消防団員の確保、住民の自主防災組織の強化による「つながりの防災力」

#### ○子どもを守る耐震化の促進

- ・学校や公的施設の耐震化を優先実施、木造住宅の耐震化促進



《台風18号災害で不通となった常神半島に設置した仮設道路》  
(平成25年10月)

## 「政策合意等における4年間の目標数値」の達成状況

目標数	達成済	達成見込	達成困難
6	0	6	0

達成率
100%

国内初となる「SATOYAMAイニシアティブ国際パートナーシップ定例会合」を本県で開催し、豊かな里山を国内外に発信しました。また、その成果を引き継ぐ「里山里海湖研究所」を設立しました。

里山保全に関する成果

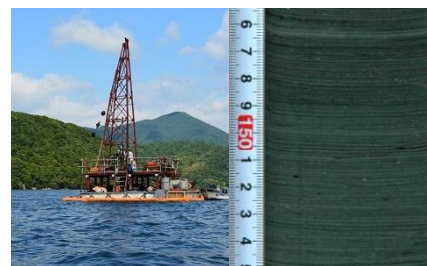
- ・平成25年9月に「SATOYAMAイニシアティブ国際パートナーシップ第4回定例会合」を開催。関連イベントを含めて県内外から約2,000人が参加
- ・平成25年10月に「里山里海湖研究所」を若狭町内に開設。「ふるさと学びの森」を設け、県民の活動実践を促進
- ・7万年分の気候変動を記録する水月湖「年縞」の価値を国内外に発信



《SATOYAMA 国際会合時の視察》  
(25年9月、越前市白山地区)



《ふるさと学びの森での学習》  
(若狭町)



《年縞の採取(左)と年縞》  
(三方五湖(水月湖))

県内で50年ぶりとなるコウノトリのヒナ誕生を実現。えさ場となる「ふゆみずたんぼ」\*の面積を大幅に拡大するなど、コウノトリが舞う村里づくりを進めました。

\*ふゆみずたんぼ：秋の収穫後から翌春まで田んぼに水を張り、微生物やドジョウ、小魚など多様な生き物が育つ環境を作ること

ふゆみずたんぼの面積

50ha  
平成22年度末

➔

650ha(見込み)  
＜目標 26年度末 100ha＞



《コウノトリの親鳥と誕生した3羽の幼鳥》  
(越前市)

「福井ふるさと百景」の保全に取り組む団体や「伝統的民家群保存活用推進地区」の指定を進め、福井らしい景観を守り、次世代に継承する県民の活動を促進しました。

### 新たな景観づくり活動に取り組む団体数

[新たに設定]



**31団体**(見込み)

< 目標 26年度末 30団体 >



《今庄宿(伝統的民家群保存活用推進地区)》  
(南越前町)

## 福井新々元気宣言に掲げた主な施策

- ◆見える見せる温暖化対策
  - 環境最先端のまちづくり
    - ・「環境・エネルギー博覧会」の開催を検討、環境国際会議を誘致
- ◆みんなで良くする生活・自然環境
  - コウノトリの舞う村里
    - ・コウノトリのえさ場づくり、「生き物共生ホット・エリア」を市町とともに整備。「生きものブランド米」を広め地域農業の活力アップ
- ◆景観を県民資産に
  - 景観保全の重点化
    - ・統一的な景観づくりを進める県民参加の「総合景観づくり委員会」
    - ・「ふくい百景」のエリア、民家群保存地区などの保全活動を促進

## 「政策合意等における4年間の目標数値」の達成状況

目標数	達成済	達成見込	達成困難
9	0	7	2

達成率
78%

北陸新幹線金沢・敦賀間の認可、若狭さとうみハイウェイの全線開通を実現。中部縦貫自動車道についても着実に整備を進めました。

### 北陸新幹線

- ・平成24年6月に金沢・敦賀間が認可
- ・37年度までとされる工期を3年前倒しする本県独自の具体的なプランを国に提案し、政府・与党に対し強く実現を要請



《北陸新幹線金沢・敦賀間起工式》  
(平成24年8月)

### 若狭さとうみハイウェイ(舞鶴若狭自動車道)

- ・平成26年7月に全線開通
- ・嶺南地域の主要観光地入込客数が前年比2割増



《高さ70mの敦賀衣掛大橋》  
(敦賀市)

### 中部縦貫自動車道

- ・平成25年3月に勝山ー大野間が開通し、26年度内に福井北ー松岡間が開通予定
- ・永平寺東ー上志比間は28年度の開通に向け、工事が進捗



《中部縦貫自動車道大野 I C 付近》

福井市とともに「県都デザイン戦略」を策定し、山里口御門の復元など実行可能なところから県都のまちづくりに着手しました。

### 県都デザイン戦略の策定と実行

- ・平成25年3月に福井市と「県都デザイン戦略」を策定。県と県庁所在市の共働による指針づくりは全国初
- ・福井城の山里口御門の復元や福井市中央公園の再整備に着手



《山里口御門復元イメージ図》  
※手前は先に復元済の御廊下橋 (H20.3)

カー・セーブ参加企業・団体を拡大し、「車に頼り過ぎない県民運動」を進めました。また、新型車両やレトロな海外車両の導入などにより、鉄道利用を促進しました。

### カー・セーブ参加企業・団体数

181企業・団体  
平成22年度末

➔

**250企業・団体超** (見込み)  
<目標 26年度末 250団体>



◀新型LRV「フクラム」(右)とドイツ製車両「レトラム」(左)▶

## 福井新々元気宣言に掲げた主な施策

- ◆高速交通ネットワークの完結促進
  - 北陸新幹線の県内延伸
    - ・県民の総力を結集し、効果的な運動を継続展開。敦賀までの認可・着工を国家プロジェクトとして実現
  - 舞鶴若狭自動車道の全線開通
    - ・小浜・敦賀間の平成26年度中の一日も早い完成。嶺南地域へのアクセスを強化する「スマート・インターチェンジ」の設置を、市町とともに国に要請
  - 中部縦貫自動車道の整備促進
    - ・勝山・大野間の平成24年度中、また福井北・永平寺東間の平成26年度の完成をめざし促進。大野・和泉間については、調査設計を国に働きかけ
- ◆次の50年の都市改造
  - 県都のデザイン戦略
    - ・長期展望をもって、県都と各都市の街並みを再設計する「総合デザイン戦略」をスタート
    - ・福井駅周辺部のにぎわい創出と利便性向上を軸に市を応援し、西口再開発
    - ・県と市が協力し福井城址周辺の整備検討を開始。地下の歴史資産を生かす「サンクガーデン化」
- ◆電車・バス・自転車に乗りやすい街
  - 「カー・セーブ戦略」のステージ・アップ
    - ・相乗り運動・パーク&ライドなどを拡充。「車に頼り過ぎない県民運動」を促進

## 「政策合意等における4年間の目標数値」の達成状況

目標数	達成済	達成見込	達成困難
9	2	4	3

達成率
67%

## 10 原子力の安全対策を見直し信頼へ、 研究開発で貢献

原子力の安全対策に万全を期し、特に大飯原発3、4号機の再稼働※において「特別な監視体制」※に県自ら参加するなど、県民の安全・安心と信頼を最優先に確保しました。

※特別な監視体制：オフサイトセンターにて副大臣を責任者とする常時監視・緊急対応体制を整備し、万一の場合に即時対応する体制

### 原子力の安全対策

- ・大飯3、4号機再稼働に際して「特別な監視体制」を国に要請し、県自らも参加
- ・独自の5km圏内住民の避難計画や、県外を含む広域避難計画要綱を策定



《大飯原発における特別な監視体制》

国の委員会において立地自治体の立場を明確に主張し、エネルギー基本計画において原子力が「重要なベースロード電源」として明記されました。

### エネルギー基本計画における原子力の位置付け明確化

- ・「安全性の確保を大前提に、エネルギー需給構造の安定性に寄与する重要なベースロード電源」に位置付け
- ・「もんじゅ」が廃棄物の減容化・有害度低減等のための国際的な研究拠点に位置付け



《資源エネルギー調査会 基本政策分科会》

嶺南地域に世界最高水準となる「原子力緊急事態支援機関(原子カレスキュー)」の整備が決定しました。また、廃炉などの新たな課題や嶺南地域の特性を活かした産業振興策の検討に着手しました。

### 全国に先駆けた原子力・エネルギー政策

- ・県の提言を踏まえ、電気事業連合会が美浜町内で「原子カレスキュー」の整備に着手
- ・全国の自治体として初めて廃炉問題等に対応する「廃炉・新電源対策室」を設置
- ・敦賀港におけるLNGインフラの整備研究を推進



《敦賀港》

**電源三法交付金・補助金の農業等新たな分野への活用により、電源地域の安心で活力あるまちづくりを進めました。**

**電源三法交付金・補助金の活用**

- ・大規模エコ園芸施設、地魚加工販売施設の整備
- ・海浜自然センター、若狭歴史博物館のリニューアル
- ・医師確保対策、高齢者グループホームの安全対策 など



《県海浜自然センター》  
(26年4月リニューアルオープン)

**福井県国際原子力人材育成センターを開設。国際原子力機関(IAEA)と覚書を交わし、アジアの原子力人材育成の拠点形成に向けて着実に前進しました。**

**海外研修生の受入数**

117人  
平成22年度末

➔

170人(見込み)  
<目標 26年度末 160人>



《IAEA原子力人材育成国際会議》  
(平成26年5月)

**福井新々元気宣言に掲げた主な施策**

- ◆原子力は安全と信頼の確保に全力
  - 国の安全対策全体の見直し、安全・保安院の役割と体制の見直しを要請
  - 万一に備え、避難・安全確保・情報連絡体制をさらに厳しく
  - 高速増殖原型炉「もんじゅ」への慎重な対処
    - ・「もんじゅ」については、中継装置落下事故を受け、試験運転再開と本格運転再開における責任ある安全対策について、より慎重・厳正な段階ごとの確認を行い、また国が前面に立った責任ある対応を強く要請
  - 原発立地地域振興策のさらなる充実
    - ・電源三法交付金・補助金について、農業分野への使途拡大など新制度を国に提案
  - 国の原子力政策への対応
    - ・原子力の安全確保と自立的・持続的な地域の発展を実現するため、原子力発電の立地地域の立場から、国の原子力政策に対し厳しい意見と積極的な提案
- ◆嶺南を「新時代エネルギー産業」の拠点へ
  - 「産業化」と「人材育成」の重点推進
    - ・エネルギー研究開発拠点化計画を進展させ、研究開発に加えて産業化など地域発展に力
    - ・「国際原子力人材センター」を中心に、アジアの人材養成の拠点に

**「政策合意等における4年間の目標数値」の達成状況**

目標数	達成済	達成見込	達成困難
3	1	2	0

達成率
100%

## 12 の政策

# 11 国体めざす県民スポーツ、 生活のなかに楽しむ県民文化

福井しあわせ元気国体の開催に向け、競技力向上を進め、平成26年長崎国体において40年ぶりに天皇杯10位台の好成績を収めました。競技会場の整備も着実に進めています。

### 国体総合成績

34位  
平成22年度



**17位**  
<目標 26年度 10位台>



《長崎国体での県勢の活躍》  
(ホッケー少年男子優勝)

子どもの体力は6回連続日本一を維持するとともに、冬季を含めた県民スポーツ祭等を実施し、県民のスポーツ実施率を高めました。

### 県民のスポーツ実施率

35%  
平成22年度



**50%超**(見込み)  
<目標 26年度 50%>



《県民スポーツ祭(アーチェリー)》

歴史的な庭園や、伝統行事・祭り等の調査を積極的に進め、文化財指定のスピードアップを図りました。

### 国宝・重要文化財・県指定文化財の新規指定件数

34件  
平成19～22年度



**37件**(見込み)  
<目標 23～26年度 34件>



《国の名勝に指定された三田村氏庭園》  
(越前市)



県立音楽堂でのプロの演奏や美術館・博物館での第一級の展示会の鑑賞等を進め、子どもたちの個性を伸ばす教育を強化しました。また、「白川静漢字教育賞」を創設し、日本の漢字教育を先導しました。

一流の芸術・文化を直接体験する子どもの数

65,182人  
平成22年度



**75,000人超**(見込み)  
<目標 26年度 75,000人>



《若狭歴史博物館》  
(平成26年7月リニューアル)

福井新々元気宣言に掲げた主な施策

- ◆飛躍する福井のスポーツ
  - 国体開催に向けた準備を着実に推進
    - ・実施予定競技・会場の選定、国体運営組織・体制づくりなど準備を本格化
  - 世界をめざすアスリート養成
    - ・外部指導者の確保、ジュニアから成年までの「スポーツ人材養成プロジェクト」
- ◆家でも外でも毎日運動
  - 子どもから大人まで楽しく体力づくり
    - ・いくつになっても体をきたえる県民運動、県民が広く参加するスポーツイベント
- ◆生活に福井の文化
  - 「文字の国ふくい」の活字文化普及
    - ・ふくいゆかりの作家や詩人の生涯を知り作品に親しむ「ふるさと文学館」を整備
  - 新をつくり、旧を残す
    - ・国宝・重要文化財、県文化財の指定スピードアップ
  - 子どもたちが一級の芸術・文化に触れる機会をさらに拡充



《国体会場となる丹南総合公園》  
(越前市)



《ふるさと文学館(イメージ)》  
(平成27年2月開館予定)

「政策合意等における4年間の目標数値」の達成状況

目標数	達成済	達成見込	達成困難
5	1	3	1

達成率
80%

首都圏の大学や民間調査機関が行った複数の調査により、福井県が「幸福度日本一」と評価されました。また、「世界一幸福な国」と言われるブータン王国との交流を進めました。

### 都道府県別の幸福度に関するランキング

- ・「47都道府県幸福度ランキング」 総合1位  
平成23年11月公表、法政大学大学院
- ・「2014年版全47都道府県幸福度ランキング」 総合1位  
平成26年1月公表、日本総合研究所
- ・「子どもの幸福度ランキング」 総合1位  
平成26年12月公表、慶應義塾大学



《ブータン王国との交流》  
(ブータンの大学生が福井の文化やそば打ちを体験)

「ふるさと知事ネットワーク」を13県に拡大し、「ふるさと企業減税」など新たな仕組みを国に対し積極的に提案しました。また、美術館所蔵品の相互展示など新たな分野での交流を進めました。

### ふるさと知事ネットワークによる提言・交流活動

- ・自立と分散による地方創生を目指す緊急提言(H26. 8)  
「ふるさと企業減税」、政府機関・大学の地方移転  
など「地方分散による地方創生戦略」等を提言
- ・新たな国づくりのための政策提案(H25. 8)  
育休給付金の給付率引上げが実現
- ・新たな分野での交流(H23～)  
首都圏での農産物販売やアンテナショップの連携  
学校給食における相互の郷土料理等の献立提供  
県立美術館所蔵品の相互企画展開催 など



《県立美術館の相互企画展》  
(青森県立美術館所蔵の棟方志功展)

市町と共働して「ふるさと帰住」相談体制を強化し、4年間で1,300人を超える「新ふくい人」を誘致しました。また、「ふるさと納税」提唱県として東日本大震災時には被災県の受付代行を行い、制度の定着・拡大に貢献しました。

### 福井で新たな生活を営む「新ふくい人」

823人  
平成19～22年度

➔

1,320人(見込み)  
＜目標 23～26年度 1,300人＞



《ふるさと納税寄付金の活用事例》  
芸術教育における弦楽器の購入・貸与

## 福井新々元気宣言に掲げた主な施策

- ◆福井から新政策のリーダーシップ
  - 地方連携の政策イノベーション
    - ・「自立と分散で日本を変えるふるさと知事ネットワーク」の連携を進め、地方発の新政策を共同で提案・実行し、全国をリード
- ◆「選ばれるふるさと」
  - 「ふるさと帰住」政策のスケールアップ
    - ・住まい・仕事・子育て・地域の付き合いをトータルにサポートする新移住政策。すべての市町が目標を設定し、帰住を増加
- ◆「ふるさと県民100万人」
  - ふるさと貢献
    - ・「ふるさと納税」制度の寄付キャンペーンを強化。制度改善を国に提案

## 「政策合意等における4年間の目標数値」の達成状況

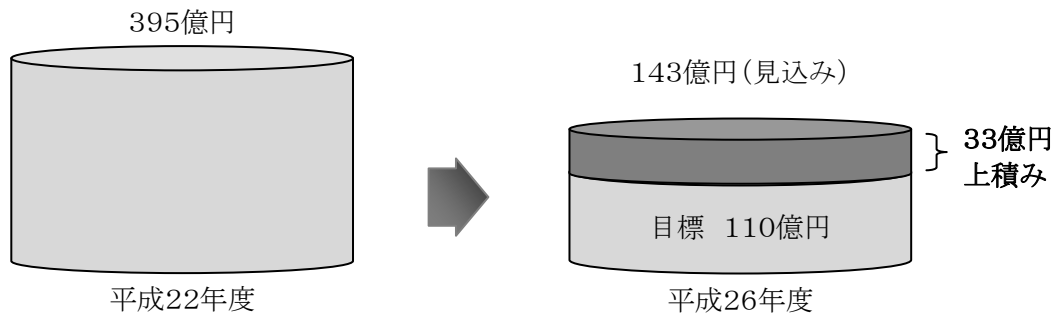
目標数	達成済	達成見込	達成困難
4	0	4	0

達成率
100%

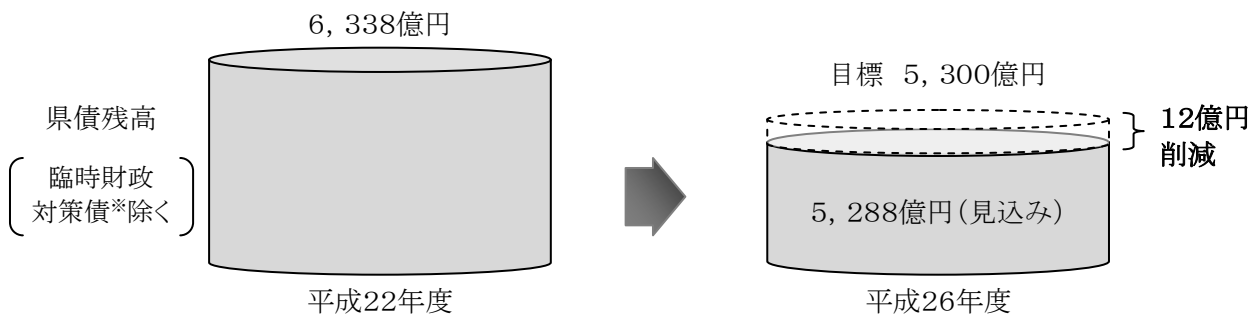
## 12 の政策 ▶ 行財政構造改革

市町と共働での滞納整理の強化や、事務事業の見直し等を積極的に進め、財政の健全化に努めました。

### 財政調整基金の残高を目標以上に確保



### 県債残高を目標以上に削減



※臨時財政対策債 … 国が交付する地方交付税の総額が不足する場合に発行する地方債。後年度に全額が地方交付税として交付される。

「ふるさと創造プロジェクト」に全17市町が着手し、地域資源を活かしたオンリーワンのふるさとづくりを進めました。

各市町の「ふるさと創造プロジェクト」計画策定委員会  
で若い世代が占める割合(平均)

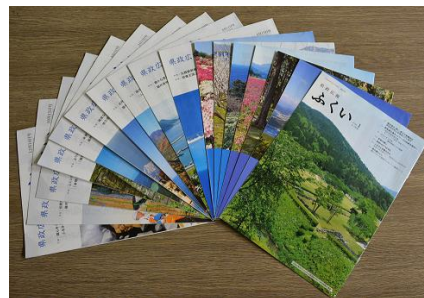
平成22年度 → 43%(見込み)  
<目標 26年度 40%以上>



《ふるさと創造プロジェクト》  
(敦賀市 博物館通りの町家再生)

## 福井新々元気宣言に掲げた主な施策

- ◆質の高い政策をめざす県庁
  - 税外収入など歳入確保と歳出合理化を進め、健全財政を堅持
- ◆県民・市町との「共動」システム
  - 新市町振興プロジェクト
    - ・「福井県民の将来ビジョン」とリンクした振興策を、市町とともに実行する「ふるさと創造プロジェクト」を推進
- ◆県民に「よくわかる県政」の実現
  - 広報・広聴の密度を高める
    - ・「県政メールマガジン」により県政情報をくわしく発信。県民の声を広く聴き活かす広報・広聴システムへ



《全面リニューアルした県政広報誌》  
「県政広報ふくい」

## 「政策合意等における4年間の目標数値」の達成状況

目標数	達成済	達成見込	達成困難
3	1	2	0

達成率
100%